

栗東市の農業に関する農業従事者アンケート調査結果（概要）1/2 令和3年1月

◆調査の目的

本調査は、農業従事者（生産者）の立場からみた、本市の農業の現状及び課題、農業の維持、振興のために今後必要な施策等に関する意向等をお聞きするために実施しました。

調査結果は、本市の農業が目指すべき将来像及び施策の方向性等を定める『（仮称）栗東市農業振興基本計画』、及び優良農地等の保全、整備の方向性等を定める『栗東農業振興地域整備計画』の検討のための基礎資料として活用します。

◆調査の概要

調査対象	令和2年9月1日現在 栗東市内に農地を保有する農業経営者等（世帯主）※悉皆調査
調査方法	郵送による配布（1,059票）、回収
調査日	令和2年10月8日（木）発送～10月30日（金）投函締切
回収数	有効回収数704票（有効回収率66.5%）

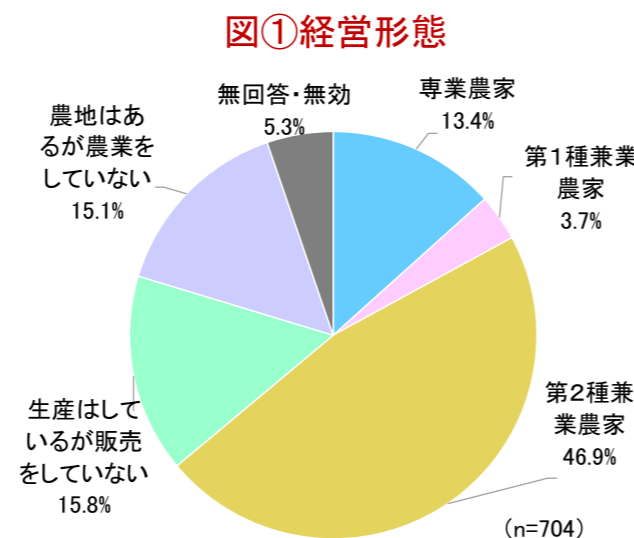
主な調査結果

※グラフ中の（n=数値）はサンプル数を示します。

農業経営の状況について

- ・**経営形態**は、「兼業農家」（第1種及び第2種）が約5割を占めています。（図①）
- ・「**専業農家**」約1割に対して、「生産はしているが販売をしていない」（＝自給的農家）及び「**農地はあるが農業をしていない**」（＝土地持ち非農家）が、それぞれ専業農家を上回る回答数となっています。（図①）

- ・**主な生産品目**は、「**水稻**」が回答者の約7割を占め、その他「**麦・大豆**」、「**野菜**」（玉ねぎ、トマト、ナス、葉物野菜など）、「**果樹**」（いちじく、ぶどう、柿、栗など）があります。
- ・**主な出荷先（販売先）**として、「**農業協同組合**」が回答者の約5割を占めています。
- ・その他「**自家消費**」、「**近所・親戚・知人に配る**」などが挙げられています。



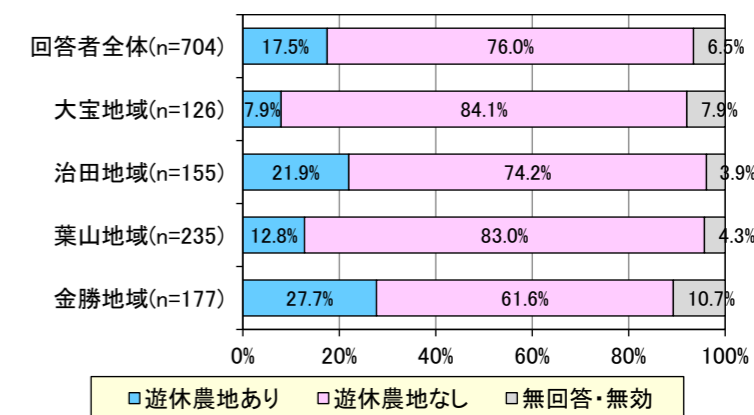
農地等の状況について

◇遊休農地

- ・**遊休農地の有無**について、回答者の2割弱が「**遊休農地あり**」としており、金勝地域及び治田地域でその割合が高くなっています。（図②）

- ・**耕作していない理由**として「**農地の条件が悪く耕作に適さない**」「**高齢化や健康面の不安により耕作できない**」などが挙げられており、遊休農地ありとする回答者の2割が遊休農地は増加傾向にあるとしています。
- ・**遊休農地の今後**として、「**現状維持もやむを得ない**」が最も多く挙げられています。

図②遊休農地の有無

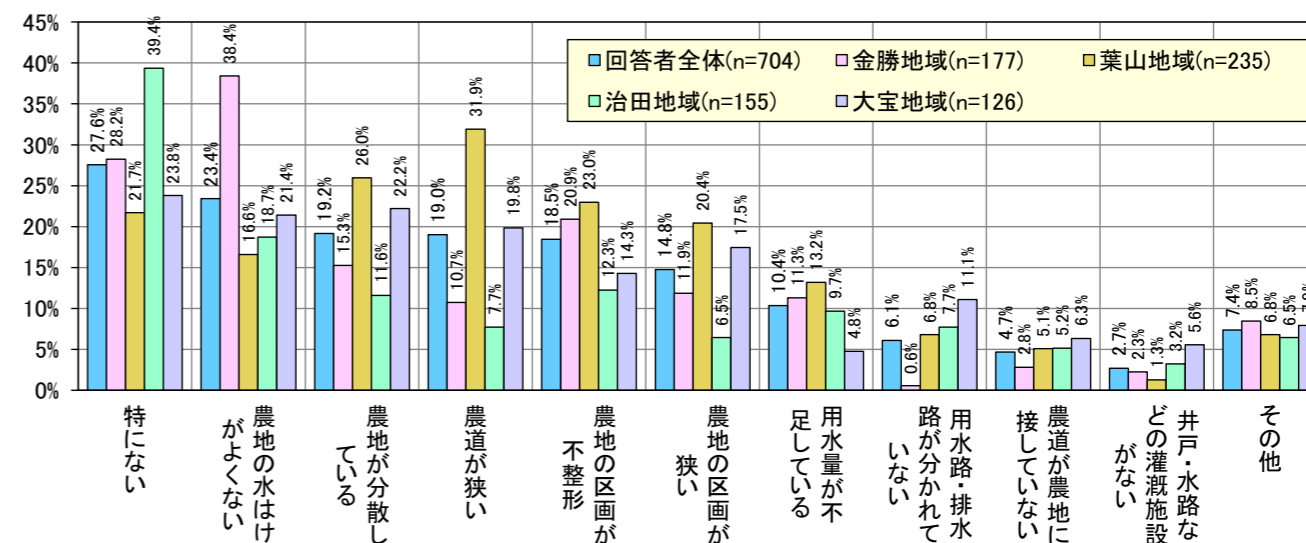


- 遊休農地について**、現状のまま放置され続けることで農地の荒廃や周辺環境への影響などが懸念されることから、農地の立地条件等に応じた対策の充実が求められます。

◇農業生産基盤の課題、必要な施設等について

- ・**改善等が必要と考える農業生産基盤**について、「**特になし**」が最も多くなりますが、地域別にみると金勝地域で「**水はけがよくない**」、葉山地域では「**農道が狭い**」などが多く挙げられています。（図③）
- ・**地域に必要な施設、機械**について、「**農作業機械（共同利用）**」が最も多く、次いで「**鳥獣被害防止施設**」「**ミニライスセンター**」「**機械収納施設**」などが挙げられています。

図③農業生産基盤の課題（回答者全体及び地域区別）



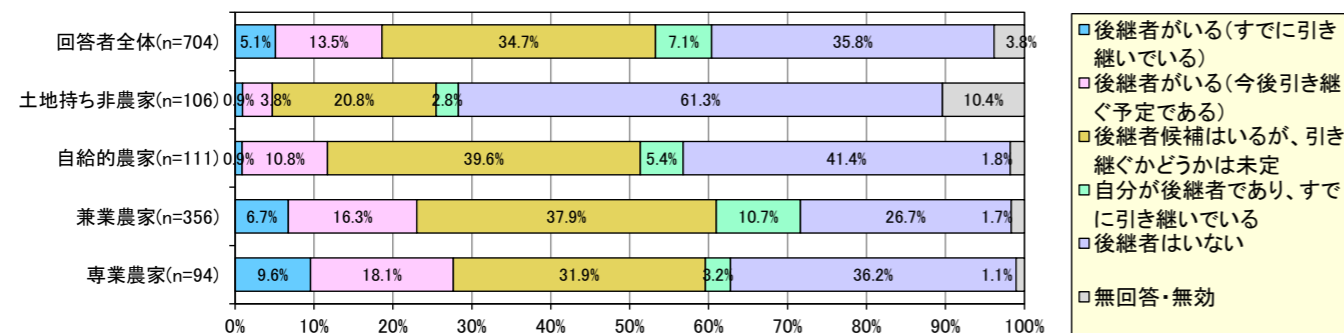
- 農業振興の課題**や求められる措置等は、地域により様々であることを踏まえ、**地域の特性**に応じたきめ細やかな対策や支援に取り組む必要があります。

今後の農業経営について

◇後継者

・後継者の有無について、回答者の約6割に後継者候補を含め後継の可能性がありますが、土地持ち非農家では「後継者はいない」とする回答者が6割を超えています。（図④）

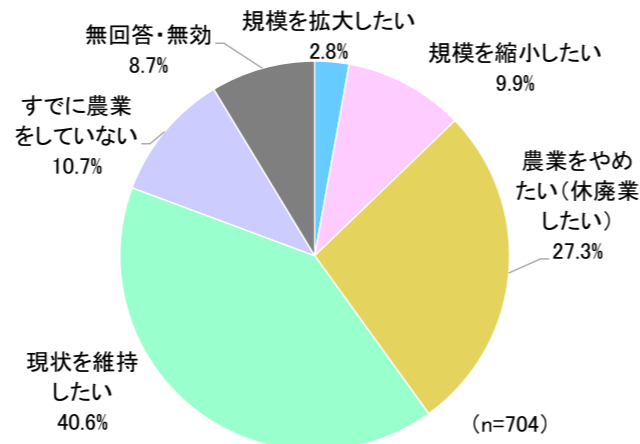
図④経営者の有無（回答者全体及び経営形態別）



◇今後の農業経営について

・今後の農業経営について、「規模を縮小したい」または「農業をやめたい（休廃業したい）」とする回答者が約4割を占めます。「規模を拡大したい」は1割未満(2.8%)にとどまります。（図⑤）

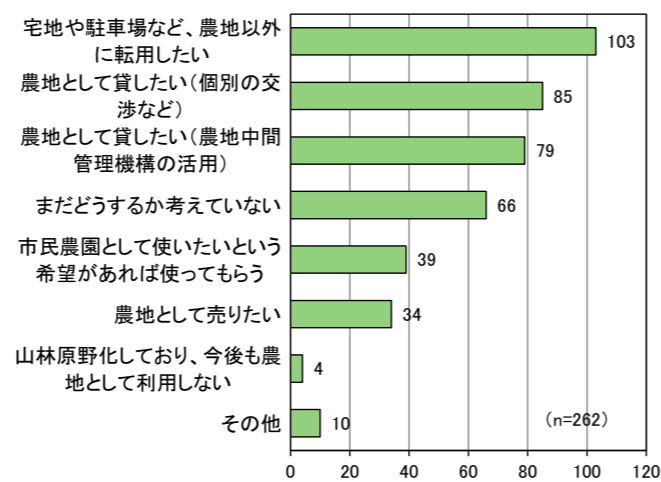
図⑤今後の農業経営について



・規模を拡大したい理由として、「農業経営を拡大し、農業収入を確保したい」などが挙げられ、拡大の方法として「農地を借用する」などが挙げられています。

・規模を縮小したい／やめたい理由として、「高齢化や健康面に不安があるから」「後継者がいないから」などが挙げられ、縮小する農地の今後として、「農地以外に転用したい」が最も多く、次いで「農地として貸したい」などが挙げられています。（図⑥）

図⑥縮小する農地の今後※



※「農地規模を縮小したい」「農業をやめたい（休廃業したい）」とする回答者を対象

●農業の後継者や拡大希望の農家に対する支援の充実とともに、土地持ち非農家などの後継が難しい農地について、地域として保全・活用を図るための取組等を推進していく必要があります。

栗東市の農業の振興について

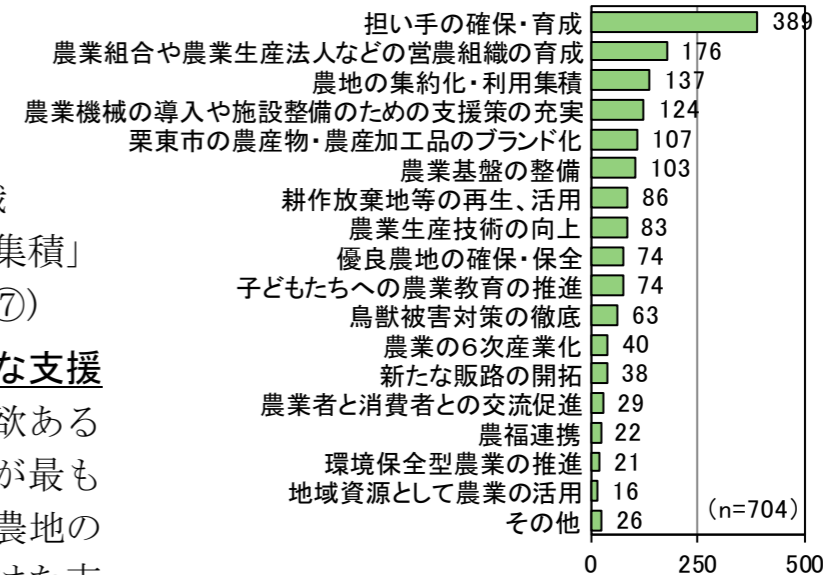
◇栗東市の農業振興に向けた取組

・農業振興に向けた取組として、「担い手の確保・育成」が最も挙げられています。（図⑦）

・その他の意見として「営農組織の育成」「農地の集約化・利用集積」などが挙げられています。（図⑦）

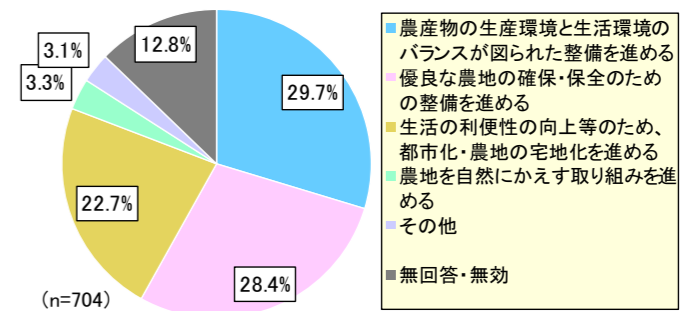
・担い手の確保・育成に向け必要な支援等として、「認定農業者など意欲ある農業者への融資制度等の充実」が最も多く、その他「新規就農者への農地のあっせん」「定年後の就農に向けた支援」などが挙げられています。

図⑦栗東市の農業振興に向けた取組



・地域（集落）や周辺における農地の整備の将来の方向性として、「農産物の生産環境と生活環境のバランスが図られた整備を進める」が最も多くなります。（図⑧）

図⑧地域（集落）の農地整備の方向性



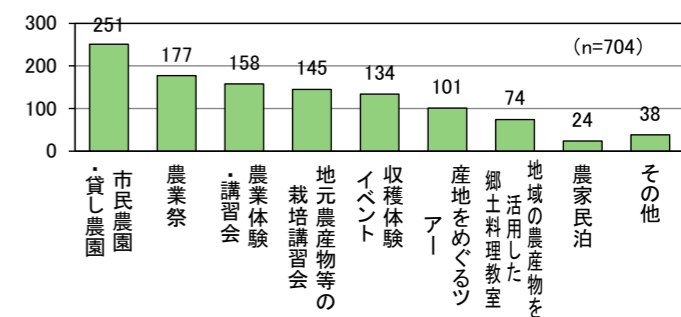
●栗東市の農業振興に向けて、担い手の確保・育成が最も望まれるとともに、農と住のバランスのとれた暮らしを実現していくことで、将来にわたる持続可能な農業経営を目指していくことが求められています。

◇市民と農業の交流等について

・参画してもよいと思う交流、イベントとして、「市民農園・貸し農園」が最も多く挙げられています。（図⑨）

・市民農園として農地を貸し出すことについて「興味がある」回答者は4割に上ります。

図⑨参画してもよいと思う交流、イベント



・地産地消の取組について、回答者の7割近くが「特に実施していない」としており、課題として「品質を確保することが困難」などが挙げられています。

●市民農園や地産地消等を契機とした「人・もの・情報」の交流の活性化による地域の多様な発展に向けた、意欲のある農業従事者と市民等をつなぐ仕組みづくりが求められます。